

順位	氏名（議席）	発言の要旨
8	小池 智明（26）	1. 富士市立高校の今後の在り方検討について 静岡県教育委員会は、①変化が激しい時代の中で必要とされる資質能力や学びの手法等が変化、②これまで以上のスピードで生徒数の減少がさらに進行、③ICT活用の急速な進展、教員多忙等の様々な課題が顕在化する中、令和4年度から県立高校の在り方について改めて検討する県立高等学校の在り方に係る地域協議会（以下、「地域協議会」という。）を県内各地区に設置した。 富士地区では令和5年度に地域協議会が設置され、委員として富士市・富士宮市から両市長をはじめ、教育長、中学校PTA会長、商工会議所・商工会代表、県立・市立高校同窓会長、オブザーバーとして各高校校長、中学校校長が出席し、検討が進められている。 本年3月に開催された第4回地域協議会では、県教育委員会から、現在、富士地区にある計9校（富士市5校、富士宮市4校）の公立高校を「令和15年度までに、富士市は3校、富士宮市は2校の適正規模の公立高校に集約」との提案が示された。 来月（7月）には、最終となる第5回地域協議会の開催が予定されているが、富士市立高校については、設置・運営主体である富士市がイニシアチブを取って議論を進めていくべきであり、そのためには今後の在り方について早い段階から検討に着手すべきと考える。 こうした観点から、以下質問する。 (1) 富士地区地域協議会の検討経過の概要について伺う。 (2) 県が想定する今後のスケジュールをどう把握しているか。 (3) 富士市立高校については、設置・運営主体である富士市として、今後の在り方について早急に検討を開始すべきと考えるがいかがか。 (4) 私は、他校との統合もやむを得ないが、先駆的に取り組み、成果を上げつつある探究学習推進の姿勢を維持・継続しつつ、県立高校として運営を移管する方向で検討すべきと考えるが、現時点での市当局の考えはいかがか。 2. 「ストック再編」を基本とした今後の公園整備・活用・管理運営の在り方について レクリエーション、防災、環境保全、景観形成など様々な役割を担う公園は、全国各自治体で整備・活用されてきている。 一方、富士市公共施設マネジメント基本方針（2015年）では、総量削減が難しい土木系インフラについては、投資コストの平準化、維持管理手法や整備手法の見直しを基本に、特に公園については「緑の基本計画に基づき、都市計画公園の再検証も含めた公園整備のあり方を見直し、施設管理の合理化を図ります」等とされている。 これを受ける形で、富士市緑の基本計画（第二次）（2016年度から2025年度まで）の中では、公園配置の検証と見直しとして、「本市では、市街地において公園配置に偏りが生じているとともに、長期未整備の都市計画公園が存在しており、計画的な整備が必要です。しかし、都市公園のストックの拡大とともに、管理費も増大しており、今後は公園の質の向上と誘致圏に配慮した効果的な公園整備が必要です。そのため、公園配置の検証と整備方針の見直しを進めます」とされ、主な取組として、都市計画公園の見直しガイドラインの策定、都市公園の整備プログラムの策定が位置づけられている。

順位	氏名（議席）	発言の要旨
8	小池 智明（２６）	こうした中、今後の本市の公園整備・活用・管理運営等について質問する。 (1) 緑の基本計画（第二次）の計画期間内に、都市公園の整備プログラムの策定にどのように取り組んできたか。 (2) 今後の公園整備・活用・管理の基本的な考え方として、新規公園整備を抑制し、既存公園の存在・活用効果を高める方向にかじを切ることが必要と考えるがいかがか。 (3) 小規模な移管公園等については、誘致圏内の公園重複率、利用動向等を踏まえ、町内会・区との協議の中で、機能分担、用途転換等を検討していく考えはないか。 (4) 比較的規模が大きく供用開始から年月が経過している公園については、市民の意見を聴きながらリニューアル・活用を進めていく考えはないか。 (5) 上記(2)から(4)までについては、現在策定中の第三次富士市緑の基本計画に考え方を明記するとともに、これを受け、今後の富士市の公園の計画的・効果的な再整備・活用・管理運営の在り方を明確にする（仮）富士市公園等ストック再編計画を策定し、各種事業を進めていく考えはないか。